

## 【解説】

この回は、もちろん「アイデンティティの確立」の説明がメインとなる。しかし「アイデンティティの確立」は、青年期の出口（成人期の入口）に位置する出来事であり、大半の高校生には分からないはず。アイデンティティが確立した人の姿を具体的に示すことで、イメージしやすくする工夫が必要。

### ○アイデンティティの確立

アイデンティティという言葉は、IDカード（身分証明書）や、UFO（Unidentified Flying Object＝航空管制官が把握していない飛行物体）などの言葉に含まれている。

アイデンティティの確立とは、「自分とは何者であるか説明できること（行動によって証明できること）」であり、「自分が自分にとってあるべき生き方を貫いていることを自覚している状態」。「この道より我を生かす道はなし、この道を行く」（武者小路実篤）という使命感。さだまさし氏の歌「風に立つライオン」の主人公の医師にも確立したアイデンティティがある。映画『耳をすませば』の登場人物でバイオリン職人をめざす「天沢聖司」の姿にも萌芽がある。

エリクソンはアイデンティティの確立を青年期の発達課題としている。これは言い換えれば「アイデンティティの確立をもって青年期が終わり成人期に入っていく」ということ。それゆえ大半の高校生にとって「アイデンティティの確立」は未知の出来事であろう。就職して自分の生き方を見定めるところ（10年後）に思い出してほしい知識である。

なお、最近では「マインドセット」という言葉が「アイデンティティの確立」とほぼ同じ意味で用いられてもいるようだ（微妙に違うようにも感じられるが）。

### ○アイデンティティ拡散の危機

映画『魔女の宅急便』の主人公の名前はキキ（危機）。魔女としての自信を失いかけたときに彼女にとっての危機が訪れている。なおジブリにはアイデンティティの確立や拡散というテーマの作品が多い。上記『耳をすませば』の他にも、例えば『ラピュタ』、『ナウシカ』、『千と千尋』にも多少その要素がある。

### ○モラトリアム（エリクソン）とモラトリアム人間（小此木）

両者は似ているようだが全く異なる。エリクソンのいう「モラトリアム」は有目的で積極的だが、小此木のいう「モラトリアム人間」は無目的で消極的。

## 本の紹介

岩宮稽古『好きなものにはワケがある』ちくまプリマー新書

佐々木隆『宮崎アニメ秘められたメッセージ』KK ベストセラーズ